

令和6年度 デジタル田園都市国家構想交付金 活用事業について

1 交付金の概要

【交付金の名称】

- ・デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）
- ・デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）

【事業概要】

地方版総合戦略に基づく、地方公共団体の自主的・主体的で先導的な事業を支援するもの

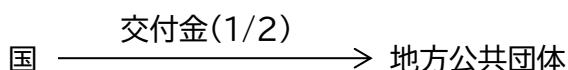
【対象事業】

デジタルの活用などによる観光や農林水産業の振興等の地方創生に資する取組や拠点施設の整備

<具体例>

- しごと創生（中小企業等の生産性向上、空き店舗対策、観光振興等）
- 地方への人の流れ（移住促進、生涯活躍のまち等）
- 働き方改革（若者雇用対策、ワークライフバランスの実現等）
- まちづくり（小さな拠点等）

【資金の流れ】



【事業実施数及び交付実績額】

採択事業　　: 9事業

交付決定額　: 492, 535, 000 円

(地方創生推進タイプ 292, 555, 000 円、拠点整備タイプ 199, 980, 000 円)

2 実績の評価

P D C A サイクルにより事業を推進するため、毎年度、外部組織による効果検証を実施することとされている。

■評価対象事業一覧

	交付金の名称	交付対象事業の名称	事業の概要(令和6年度)	総事業費(円)	交付決定額(円)
1	デジタル田園 都市国家構想交付金 (地方創生推進タイプ)	域外から稼ぐ力を生み出す「新たな産業・交流拠点」づくり推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代型スマートホール(=多目的ホール)の特性を生かしたMICE等の開催を支援 ・産業交流スペースによる5G等未来技術の活用支援及びDX導入促進を目指した産業支援の機能強化 ・AI技術等の活用によるヘルスケア関連産業創出事業 ・アカデミーハウス次世代人材育成推進事業 ・新たなモビリティサービス調査・実証事業等 	136,556,961	76,310,000
2		多様な主体が連携した「やまぐち創生テレワーク」×「山口型ワーケーション」×「地域づくり」の広域的・一体的な推進による移住・還流促進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活かしたワーケーションプログラムの開発・商品化 ・オーダーメイドワーケーションプログラム ・秋穂八十八ヶ所霊場紹介パンフレットの作成 ・「湯田弁」開発検討 ・テレワーク(ワーケーション)環境整備事業 	9,515,845	5,017,000
3		次世代へつなぐ商店街づくり加速化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・既存ストックを活用したまちの再生 ・商店街のアーケードの安全性・快適性向上に資する雨仕舞設置費用の補助 ・求心力のある商業・業務エリアの形成による生産性の向上 ・「稼ぐ力」の向上につながる勉強会の開催や、webサイト、SNS等による情報発信など ・中心商店街の新たなな価値創出によるまちの活性化 ・山口井筒屋2階の「コトサイト」の運営、新たな来街者を呼び込むためのイベント開催や情報発信に対する支援など 	63,310,142	32,231,000
4		人生100年時代を楽しむ21の幸せ地域拠点づくり～Jリーグクラブ「レノファ山口」のつなぐ力でスマート"ライフ"シティづくり～	<ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツの集客力等を生かした全世代交流事業の実施 ・健康分野や教育分野に関わる企業、医療機関、大学、プロスポーツチーム等と連携した健康づくり事業の実施 ・市民参加による地域の愛着醸成に寄与する事業 ・デジタル技術を活用した多世代交流事業の実施や地域情報の発信 ・地域や企業が主体となった地域活性化事業の実施 ・事業実施に向けた地域人材の育成 	13,333,000	6,666,000
5		女性活躍推進を軸とした誰もが輝ける多様な環境づくり重点プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・女性人材の掘り起こし・女性が輝き活躍できる場の創出 ・企業向け中小企業の意識改革セミナー、未就労者向け多様な働き方や働く場を学ぶセミナー等の開催 ・多様な働く場の創出によるインクルーシブな社会の実現 ・離職者向け就活リストアセミナー、就職マッチング交流会の開催、従業員スキルアップのための研修費等の支援 ・働き方改革やデジタル化を契機とした柔軟な働き方促進と企業の生産性向上 ・中小企業大学校サテライト等の実施 	19,477,173	11,586,000
人生100年時代		関係人口の創出による農山漁村エリア活性化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・交流人口の拡大 ・地域資源を活用した各種イベントの開催支援、農林水産物の販売イベントの開催など ・関係人口の創出、移住定住の取組による持続可能な農山村エリアの形成 ・関係案内人の育成や地域の関わりしろの体験プログラムの開催など ・農林水産業の振興 ・スマート農機導入に向けた支援、やまのいもや椎茸など担い手育成に向けた取組への支援など 	97,533,613	58,517,000
7		「山口ゆめ回廊」観光を基軸とした交流価値共創プロジェクト～観光交流から移住・定住へ～	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活様式や行動様式等社会変化に対応した持続可能な新たな交流の創造 ・新しい生活様式や行動様式等社会変化に対応した新たな人流創出 ・KDDI維新ホール等を活用した新たな交流創出 ・住んでよし、訪れてよしの観光地域づくりを通じた多様な交流創造事業 ・インバウンド誘客から創出する「まちの賑わい」創出事業 	174,314,836	82,728,000
8		地域経済を支える地元企業人材確保プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用の受け皿となる中小企業の人材確保力等の強化に向けた取組 ・企業向けのインターンシップ設計・実践の伴走支援、中高生等を対象とした職業体験イベント「やまぐち未来のしごとフェスタ」の開催など 	36,989,281	19,500,000
合 計				551,030,851	292,555,000
1	デジタル田園 都市国家構想交付金 (地方創生拠点整備タイプ)	道の駅「仁保の郷」の機能強化による地域経済活性化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「仁保の郷」の農産物直売所・レストランの増築工事 ・多様なイベントの開催が可能な多目的デッキの改修 	366,253,193	199,980,000
合 計				366,253,193	199,980,000

デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ及び地方創生拠点整備タイプ)
事業報告書(令和6年度実施分)

交付対象事業の名称(地方創生推進タイプ)	担当課	頁
1 域外から稼ぐ力を生み出す「新たな産業・交流拠点」づくり推進事業	ふるさと産業振興課	4
2 多様な主体が連携した「やまぐち創生テレワーク」×「山口型ワーケーション」×「地域づくり」の広域的・一体的な推進による移住・還流促進事業	農山村づくり推進課 (観光交流課)	7
3 次世代へつなぐ商店街づくり加速化プロジェクト	中心市街地活性化推進室	12
4 人生100年時代を楽しむ21の幸せ地域拠点づくり ～Jリーグクラブ「レノファ山口」のつなぐ力でスマート”ライフ”シティづくり～	湯田温泉パーク整備推進室	15
5 女性活躍推進を軸とした誰もが輝ける多様な環境づくり重点プロジェクト	ふるさと産業振興課	21
6 関係人口の創出による農山漁村エリア活性化プロジェクト	農山村づくり推進課	26
7 「山口ゆめ回廊」観光を基軸とした交流価値共創プロジェクト ～観光交流から移住・定住へ～	観光交流課	31
8 地域経済を支える地元企業人材確保プロジェクト	ふるさと産業振興課	37
交付対象事業の名称(地方創生拠点整備タイプ)	担当課	頁
1 道の駅「仁保の郷」の機能強化による地域経済活性化プロジェクト	農山村づくり推進課	41

域外から稼ぐ力を生み出す「新たな産業・交流拠点」づくり推進事業

1 事業の概要

所管課	商工振興部ふるさと産業振興課	計画期間	令和2年4月 - 令和7年3月
交付金の種類	デジタル田園都市国家構想交付金 (地方創生推進タイプ)	単独事業と 広域事業の別	広域 (山口県、山口市、萩市、長門市)
基本目標	地域の特性に応じた持続可能な都市圏・生活圏の形成	基本目標	山口の魅力に磨きをかけ、新たな「ひと」の流れをつくる
具体的な施策	元気な県都づくり	具体的な施策	元気な県都づくり
具体的な取組	広域県央中核都市づくり	具体的な取組	文化・観光・スポーツ資源を活用した交流創出
基本目標	便利で豊かな創造社会の構築	基本目標	便利で豊かな創造社会の構築
具体的な施策	持続可能な未来都市づくり	具体的な施策	持続可能な未来都市づくり
具体的な取組	デジタル技術の活用推進(DX)	具体的な取組	未来を担う人材育成(HX)
事業の概要(目的)	事業実施の状況		
令和3年度に供用開始した「山口市産業交流拠点施設」を核に、交流人口の拡大、ヘルスケアやモビリティサービスなどの新産業の創出支援などの産業支援機能強化、人材育成などの取組を一連的に進めることにより、地域のブランド力の向上や、若者・女性に魅力あるサービス分野での雇用の場の創出を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ■次世代型スマートホール(=多目的ホール)の運営 ・スマートホールの特性を生かしたMICE等の開催を支援 ■産業交流スペースによる5G等未来技術の活用支援及びDX導入促進を目指した産業支援の機能強化 ・産業交流スペースにおいて、起業・創業支援や中小企業支援、デジタル人材ネットワークづくりを実施 ・デジタル人材の発掘や育成等を実施 ■AI技術等の活用によるヘルスケア関連産業創出事業(県への負担金) ・「やまぐちヘルスケア関連産業推進協議会」の運営 ・「やまぐちヘルスラボ」を設置し、企業が行うヘルスケア関連製品・サービスの事業化を支援 ・令和4年度に引き続き、島津製作所等6者合意に基づく地域コホート研究事業を実施 ■アカデミーハウス次世代人材育成推進事業 ・哲学ベース時間共有型キャリア開発「P.C.Tプログラム」を実施 ■新たなモビリティサービス調査・実証事業 ・新たなモビリティサービスの需要の検証及び実証実験を実施 		
事業の概要(経費内訳)	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代型スマートホール(=多目的ホール)の特性を生かしたMICE等の開催を支援(13,096千円) ・産業交流スペースによる5G等未来技術の活用支援及びDX導入促進を目指した産業支援の機能強化(62,569千円) ・AI技術等の活用によるヘルスケア関連産業創出事業(11,011千円) ・アカデミーハウス次世代人材育成推進事業(29,595千円) ・新たなモビリティサービス調査・実証事業等(20,286千円) 		

2 本事業における重要業績評価指標(KPI)の達成状況

(1)KPIの達成状況

KPI項目		単位	事業開始前	実績値(増分) (令和5年度)	実績値(増分) (令和6年度)	目標値(増分) (令和6年度)
①	本取組等の効果による事業化件数	件	0	7	9	11
②	施設利用者数(年間) ※次世代型スマートホール、ライフィノベーションラボ、アカデミーハウス等	人	0	373,403	375,679	357,000
③	本取組等による実証事業の実施件数 (ヘルスケア関連産業創出事業)	件	0	1	2	3
④	本取組等による実証事業の実施件数 (新たなモビリティサービス調査・実証事業)	件	0	4	4	4

(2)評価

本事業の実施状況について			
事業効果	本事業は地方創生に相当程度効果があつた。	理由	産業交流拠点施設は、開館から4年が経過したことで認知度も上がり、稼働率も向上しており、施設を起点とした新たなにぎわいや産業の創出につながっている。 また、新たなモビリティサービスについては、観光利用のみならず、日常生活の移動の選択肢が広がり、一定程度の市内回遊が促された。
実績値を踏まえた事業の今後について			
今後の方針	事業が効果的であったことから、取組の追加等、更に発展させる。	理由	交付金実施計画終了後も、産業交流拠点施設を更に活用し、新たな産業・雇用の創出につなげ、交流人口の増大などによる地域経済の活性化を図るため、引き続き、利用者の更なる獲得に向けた取組や、長期的な視点での新たな施設需要の拡大等に着実につなげる取組を実施していく。

「域外から稼ぐ力を生み出す『新たな産業・交流拠点』づくり推進事業」の概要

【次世代型スマートホール(=多目的ホール)の運営】

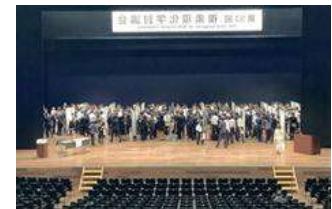
- 広域県央中核都市の実現に向け、県の陸の玄関口にふさわしい「山口県ナンバーワンのビジネス拠点」の形成を図るため、「産業」、「にぎわい」、「生活文化」の3つの創造の視点により整備した「山口市産業交流拠点施設」の管理運営。



- スマートホールの特性を生かしたMICE等の開催を支援

<開催を支援した主な催事>

- ・令和6年10月5日～6日 熱工学コンファレンス 2024
- ・令和6年10月9日～10日 第53回複素環化学討論会
- ・令和6年11月28日～29日
 - 第54回全国小学校国語教育研究大会(山口大会)
 - ・第34回中国地区国語教育研究大会(山口大会)
- ・令和7年3月6日～7日 地域活性化人材育成事業～SPARC～全国シンポジウム
- ・令和7年3月15日～16日 第25回日本褥瘡学会中国四国地方会学術集会



【産業交流スペースによる5G等未来技術の活用支援及びDX導入促進を目指した産業支援の機能強化】

- 山口市産業交流拠点施設内に設置した「産業交流スペース」の管理運営。起業・創業支援や中小企業支援を実施した。

- デジタル技術の活用や人材ネットワークの形成を目的として、企業や大学、エンジニアなどのデジタル人材の発掘や育成、更には、こうした人材が活躍する環境づくりとして、外需獲得及び内需喚起の取組を行い、仕事の創出を図った。



【AI技術等の活用によるヘルスケア関連産業創出事業】(山口県への負担金)

- 県内におけるヘルスケア関連産業の創出・育成の推進母体として産学公で構成される、「やまぐちヘルスケア関連産推進協議会」の運営を行った。
- 企業が行うヘルスケア関連製品・サービスの事業化支援を行う「やまぐちヘルスラボ」において、相談対応(新規相談17事業者、継続相談19件 計36回)やモニタ一実証支援(2件)、イベント開催(5回)を行った。
- 島津製作所等6者合意に基づく地域コホート研究事業は、令和4年度末で阿知須地域での介入調査は終了し、令和6年度は令和5年度に引き続き、調査結果のA/Iデータ解析を行った。



【アカデミーハウス次世代人材育成推進事業】

- 哲学をベースとした時間共有型のキャリア開発「P. C. Tプログラム」としてPBLプログラムやキャリアデザイン、哲学カフェ、スマートキャリアサロン等を実施。また、小郡地域で開催された「小郡一直線まつり」に参加し、賑わい創出の一助を担った。



【新たなモビリティサービス調査・実証事業】 (別紙)

令和6年度 新たなモビリティサービス調査・実証事業



事業概要

(山口市単独事業)

- やまぐちMaaS用Webアプリ「ぶらやま」による交通デジタルチケットの販売
- 新たなビジネスモデルの構築(移動サービスと多様なサービスとの組合せ)
- 実証実験の実施 対象エリア:新山口駅～山口エリア(一部、萩・美祢エリア含む)
実験期間:令和6年4月～令和7年3月末まで
- 実験後の効果検証 利用者アンケートの実施
- デジタルチケット販売機能の民間MaaSへの移行、交通ポータルWEBサービスの構築

令和6年度新たなモビリティサービスの実証事業

【令和6年度実証期間】令和6年4月1日～令和7年3月31日(通年)



	令和6年度
サービス提供数	14種
アカウント登録数(累計)	10,348人
デジタルチケット販売枚数	3,310枚
閲覧ユーザー数	27,456件
超小型モビリティ利用件数	R4.4.27より 民間事業化

①デジタルチケットの販売等

- ・バス事業者デジタルチケットの販売 (のる得きっぷ、山口・秋芳フリーきっぷ)
- ・レノファ山口と連携したデジタルチケットの販売
- ・KDDI維新ホールや市内イベント(湯田温泉、中心商店街)と連携したデジタルチケットの販売
- ・デジタル版山口市ノーマイカード「つなぐカード」の発行

②シェアサイクルとの連携

- ・「ぶらやま」の経路検索とアプリケーションの連携



「交通ポータルWEBサービス」



アプリケーションの連携



複合経路検索 (電車やバスだけでなく、シェアサイクルなど様々なモビリティを使った経路検索)

多様な主体が連携した「やまぐち創生テレワーク」×「山口型ワーケーション」×「地域づくり」の広域的・一体的な推進による移住・還流促進事業

1 事業の概要

所管課	農林水産部農山村づくり推進課 交流創造部観光交流課	計画期間	令和4年4月 - 令和9年3月
交付金の種類	デジタル田園都市国家構想交付金 (地方創生推進タイプ)	単独事業と 広域事業の別	広域 (山口県、山口市、宇部市、岩国市、長門市、周南市)
基本目標	山口の魅力に磨きをかけ、新たな「ひと」の流れをつくる	基本目標	地域の特性に応じた持続可能な都市圏・生活圏の形成
具体的な施策	21地域づくりと農山村活性化	具体的な施策	元気な県都づくり
具体的な取組	農山村エリアの地域活性化	具体的な取組	広域県央中核都市づくり
基本目標		基本目標	
具体的な施策		具体的な施策	
具体的な取組		具体的な取組	
事業の概要(目的)	事業実施の状況		
山口市への移住やワーケーションを希望する県外在住者に、希望に沿ったオーダーメイド型の体験プログラムを提供することで、移住の促進及び関係人口の創出を図る。 また、県内最大の宿泊拠点「湯田温泉」への更なる誘客・滞在時間・消費拡大を目指し、コロナ禍で注目された新しい旅行形態を意識した民間主導の商品造成・プロモーションの取組を支援する。	<p>①オーダーメイドワーケーションプログラム 市内の各地域において全8回のワーケーションプログラムを実施し、県外から延べ31名がプログラムに参加</p> <p>②秋穂八十八ヶ所靈場紹介パンフレット作成 県内最大の宿泊拠点「湯田温泉」における更なる交流創出(利用促進、消費拡大、満足度向上)に向け、湯田温泉エリアから予約不要で楽しむことが可能な靈場巡りの情報を掲載した冊子を制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの仕様(B5、12ページ、フルカラー) ・日本語版、英語版各500部及びデータ納品 <p>③「湯田弁」開発検討 湯田温泉での朝食をとれる場所が少ないとから、山口市をはじめとした食材等を用いたオリジナル弁当を開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試作協力は株式会社キシモト、パッケージデザインは山野りんりんさん ・チラシの仕様(A4、片面、フルカラー(200部及びデータ納品)) <p>④テレワーク(ワーケーション)環境整備事業 民間事業者が、農山村エリアにおいてテレワーク、ワーケーションが対応可能な環境を整備する事業に対し支援(1件) ※農山村エリア…仁保、小鯖、陶、鑄銭司、名田島、秋穂二島、秋穂、徳地、阿東(9地域)</p>		
事業の概要(経費内訳)			
地域資源を活かしたワーケーションプログラムの開発・商品化 ①オーダーメイドワーケーションプログラム(4,223千円) ②秋穂八十八ヶ所靈場紹介パンフレットの作成(2,500千円) ③「湯田弁」開発検討(2,500千円) ④テレワーク(ワーケーション)環境整備事業(293千円)			

2 本事業における重要業績評価指標(KPI)の達成状況

(1)KPIの達成状況

KPI項目		単位	事業開始前	実績値(増分) (令和5年度)	実績値(増分) (令和6年度)	目標値(増分) (令和6年度)
①	本事業を通じたテレワーク移住者数 (テレワーク移住支援制度活用者数)	人	4	72	107	13
②	本事業で運営する県のテレワーク・ワーケーション拠点施設における 県外からの利用者数	人	1,280	4,191	4,371	2,640
③	本事業で進める「やまぐち創生テレワーク」ネットワーク加入者数	施設	22	4	3	3

(2)評価

本事業の実施状況について			
事業効果	本事業は地方創生に相当程度効果があつた。	理由	地域とのつながりを実感できる本市ならではのワーケーションプログラムを提供することで、SNS等での本市の情報発信や定期的に本市を訪れ、イベント等に参加する関係人口の創出ができたため。また、新たな観光需要の取り込みを目的として、官民連携による取組が実施できたことは、今後の本市の持続可能な観光地域づくりの更なる推進につながるものとして評価したため。
実績値を踏まえた事業の今後について			
今後の方針	事業が効果的であつたことから取組の追加等更に発展させる。	理由	今までとは違う、1~2週間と長期期間でのワーケーションプログラムを提供し、本市と継続的に関わってもらえる人材の発掘、地域との交流から地域の発展を図る必要があること、また、2026年の山口デスティネーションキャンペーンの開催を見据え、引き続き、官民連携の更なる推進を通じて、多彩な交流から創出される経済効果の波及による地域経済の活性化を目指すことで、関係人口の創出を図り、今後の本市の持続可能な観光地域づくりの更なる推進を図る必要があるため。

多様な主体が連携した「やまぐち創生テレワーク」×「山口型ワーケーション」×
「地域づくり」の広域的・一体的な推進による移住・還流促進事業 の概要

●オーダーメイドワーケーションプログラム

山口市への移住やワーケーションを希望する県外在住者に、希望に沿えるオーダーメイド型の体験プログラムを提供し、移住の促進及び関係人口の創出を図った。
(全8回、計31名参加)

日 程	名 称	体験内容(抜粋)	参加者数
6月 7日～10日	徳地地域①プログラム	石風呂体験、蛍観賞	4名
7月27日～29日	徳地地域プログラム②(親子対象)	自然体験、徳地和紙手漉き体験	12名
8月4日～7日	南部エリアプログラム①	木工体験、サウナ体験	4名
10月4日～7日	南部エリアプログラム②	サイクリング、SUP、ボルダリング	3名
11月15日～18日	街なかエリアプログラム	起業パン屋施設体験、大内人形絵付け体験	1名
11月15日～18日	仁保、佐山	ギャラリー訪問トレッキング、農作業体験	4名
2月22日～24日	阿東地域プログラム①	梨の農作業体験、焚火・星空観察	2名
3月20日～24日	阿東地域プログラム②	農業体験、古民家リフォーム体験	1名



●湯田温泉魅力創造事業

① 秋穂八十八ヶ所霊場紹介パンフレット作製

日本最古の写し四国といわれる「秋穂八十八ヶ所霊場」。インバウンドはもとより、日本人の方も対象に、湯田温泉エリアから予約不要で楽しむことのできる霊場巡りのことを知っていただき、実際に足を訪れていただくことを目的として、秋穂八十八ヶ所霊場めぐりの基本的な情報(地域に根付く文化や巡礼の作法、札所)のほか、それぞれの楽しみ方に応じたコースを掲載した冊子を制作した。

■秋穂八十八ヶ所霊場紹介パンフレットの仕様

・B5、12ページ、フルカラー(日本語版、英語版各500部及びデータ納品)

■チラシの仕様

・A4、片面、フルカラー(200部及びデータ納品)

■オリジナルデザイン(山野りんりん作)



●テレワーク(ワーケーション)環境整備事業

都市部等からの企業や個人の関係人口、二地域居住者を積極的に呼び込むことを目的として、民間事業者が農山村エリアでテレワークが対応可能な環境を整備する事業に対して支援を行った。

テレワーク施設1件〈阿東地域〉



次世代へつなぐ商店街づくり加速化プロジェクト

1 事業の概要

所管課	商工振興部中心市街地活性化推進室	計画期間	令和3年4月 - 令和8年3月
交付金の種類	デジタル田園都市国家構想交付金 (地方創生推進タイプ)	単独事業と 広域事業の別	市単(山口市)
基本目標	地域の特性に応じた持続可能な都市圏・生活圏の形成	基本目標	
具体的な施策	元気な県都づくり	具体的な施策	
具体的な取組	広域県央中核都市づくり	具体的な取組	
基本目標		基本目標	
具体的な施策		具体的な施策	
具体的な取組		具体的な取組	
事業の概要(目的)		事業実施の状況	
(1)既存ストックを活用したまちの再生 まちづくり事業者が商店街関係者等と連携し、遊休不動産の再生を進め、効果的にエリア価値の向上を図る。 (2)求心力のある商業・業務エリアの形成による生産性の向上 デジタル技術の活用等とともに、中心商店街全体の生産性の向上を図り経済基盤を強化する。 (3)中心商店街の新たな価値創出によるまちの活性化 商業活動に限らない多様な活動の支援を通じ、中心商店街を「豊かな生活を支える場」としていくことで、新たな需要や来街者を生み出し、恒常的な賑わいの創出と回遊性の向上を図る。		(1)既存ストックを活用したまちの再生 遊休不動産の活用を進めるための提案資料を作成し、所有者へ働きかけを行った。また、商店街のアーケードの安全性・快適性向上に資する雨仕舞設置費用の補助を行った。 (2)求心力のある商業・業務エリアの形成による生産性の向上 「稼ぐ力」の向上につながる他都市の先進的な取組の勉強会を開催した。また、中心市街地活性化に関する取組について、webサイト、SNS等の効果的な活用を図りながら、広く市民に情報発信を行った。 (3)中心商店街の新たな価値創出によるまちの活性化 山口井筒屋2階に地域の魅力発信・交流スペース「コトサイト」を運営し、市内の魅力ある特産品の販売・情報発信や、主に子ども向けのイベントやアクティビティの提供を行った。 「VIVISTOP YAMAGUCHI」の運営を通じて、中心商店街全体を活動のフィールドとし、子どもたちがものづくりやロボットコンテスト等を通じて地域とつながる活動を行った。 新たなヤマグチブランド創出のための取組に対する支援を行った。 中心商店街に「創業」を体験できるチャレンジショップを開設した。 新たな来街者を呼び込むためのイベント開催や情報発信、中心商店街におけるイベント等に対する支援を行った。	
事業の概要(経費内訳)		中心市街地まちなみの魅力向上支援事業(1,000千円) 中心商店街稼ぐ力向上支援事業(1,370千円) 中心商店街情報発信事業(1,298千円) 多様性あふれる商店街推進事業(20,000千円) まちなかクリエイティブフィールド事業(17,800千円) ヤマグチブランド創出事業(1,727千円) まちなか起業創進事業(5,287千円) 中心商店街賑わい創出事業(9,828千円) 中心商店街商環境向上支援事業(5,000千円)	

2 本事業における重要業績評価指標(KPI)の達成状況

(1)KPIの達成状況

KPI項目		単位	事業開始前	実績値(増分) (令和5年度)	実績値(増分) (令和6年度)	目標値(増分) (令和6年度)
①	中心商店街に新規出店した店舗の1日当たりの平均来店者数合計	人	0	258	444	496
②	中心商店街の来街者数(平日・イベントのない休日平均)	人	34,700	-2,436	-2,836	520
③	商店街滞在時間(1時間30分)以上の割合	%	39.8	-0.5	-1.4	1.7

(2)評価

本事業の実施状況について			
事業効果	本事業は地方創生に効果があった。	理由	多様性あふれる商店街推進事業や、まちなかクリエイティブフィールド事業により、子育て世代や子どもたちにとって新たな中心市街地へ出かける機会を提供できている。また、こうした事業を通じて中心市街地に愛着をもつ次世代の育成にもつながっている。さらに、ヤマグチブランド創出事業により、チョコレートのまちとしてのイメージが生まれ、出店にもつながっている。
実績値を踏まえた事業の今後について			
今後の方針	事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる。	理由	中心商店街活性化に向けた取組については、効果の発現に時間を要するため、一過性の取組にならないように、積み重ねと発展が求められるため。

「次世代へつなぐ商店街づくり加速化プロジェクト」の概要

(1)既存ストックを活用したまちの再生

①中心市街地まちなみの魅力向上支援事業

遊休不動産の活用を進めるための提案資料を作成し、所有者へ働きかけを行いました。また、商店街のアーケードの安全性・快適性向上に資する雨仕舞設置費用の補助を行いました。

(2)求心力のある商業・業務エリアの形成による生産性の向上

①中心商店街稼ぐ力向上支援事業

中心商店街全体の「稼ぐ力」の向上に向けて、繁盛店創出プロジェクトとして、洋品店から地域の交流拠点として業態変更した事例の視察・研究や、動画によるPRを考えている店舗を募集し、動画作成やPR支援を行いました。

②中心商店街情報発信事業

「くるーニヤッ！やまぐちWEBマガジン」の発行やwebサイト、SNS等により、中心市街地における市の事業や新たに始まったイベント等に関する情報を発信しました。



(3)中心商店街の新たな価値創出によるまちの活性化

①多様性あふれる商店街推進事業

山口井筒屋2階の地域の魅力発信・交流スペース「コトサイト」を運営しました。常時300冊の絵本や、市内産の木育玩具で遊ぶことができ、約60坪の人工芝の広場では、下記のとおり多彩なイベントを行いました。また、地域の魅力発信コーナーでは、山口市内を中心とした特色ある商品の展示・販売を行いました。

○事業実施スペースの賃貸、設備設置等

○施設運営およびイベント等の実施

- ・赤ちゃんハイハイレース
- ・ママ叶
- ・コトもの体験会
- ・コトサイト塾 ほか



②まちなかクリエイティブフィールド事業

道場門前の「VIVISTOP YAMAGUCHI」において、中心商店街全体を活動のフィールドとし、子ども達がものづくりを通じて地域とつながる活動を行いました。令和6年度はロボットコンテストも実施し、商店街を盛り上げました。



③ヤマグチブランド創出事業

新たなヤマグチブランド創出のため、商工会議所が主催する Chocofuror Yamaguchi! チョコレート事業への補助金を交付しました。補助金を活用して、真夏のチョコレート祭りや2月のプチ・チョコレートフェアの開催、中心商店街のチョコレート模様のペナントによる装飾等が行われました。

④まちなか起業創業促進事業

中心商店街の mirai365内に、まちなか起業に向けて若い創業者等が集い繋がる場、また、「創業」を体験できるチャレンジショップを開設しました。

⑤中心商店街賑わい創出事業

新たな来街者を呼び込み、商店街全体の集客に結びつけるため、百貨店や美術館、高等学校等と連携し、賑わいの創出、回遊性の向上を図るイベントの実施や情報発信を行いました。

- ・中心商店街「匠」マップ、やまぐち商店街「MA 歩」作成
- ・商店街体験博
- ・おいでーね！やまぐちチャレンジショップ
- ・山農マルシェ
- ・学生芸術祭
- ・山口県立美術館 HEART 連携事業
- ・動画による魅力発信事業



⑥中心商店街を舞台としたイベント等実施主体に対する支援(補助事業)

- ・コメコメマルシェ(米屋町商店街)
- ・100円商店街(西門前商店街)
- ・山口祇園祭「女みこし」(山口市商店街連合会)
- ・山口クラフトマルシェ(山口クラフトマルシェ実行委員会)
- ・こめこめフェスティバル
- ・結人祭(中市商店街)
- ・どうもんフェスティバル(道場門前商店街)
- ・ハロウィン仮装コンテスト(サークルセブン)



人生100年時代を楽しむ21の幸せ地域拠点づくり ～Jリーグクラブ「レノファ山口」のつなぐ力でスマート”ライフ”シティづくり～

1 事業の概要

所管課	交流創造部湯田温泉パーク整備推進室	計画期間	令和3年4月 - 令和8年3月
交付金の種類	デジタル田園都市国家構想交付金 (地方創生推進タイプ)	単独事業と 広域事業の別	市単(山口市)
基本目標	地域の特性に応じた持続可能な都市圏・生活圏の形成	基本目標	地域の特性に応じた持続可能な都市圏・生活圏の形成
具体的な施策	21地域づくりと農山村活性化	具体的な施策	人生100年時代の元気活躍のまちづくり
具体的な取組	個性と安心の21地域づくり	具体的な取組	健康都市づくりの推進
基本目標		基本目標	
具体的な施策		具体的な施策	
具体的な取組		具体的な取組	
事業の概要(目的)	事業実施の状況		
プロサッカークラブ「レノファ山口FC」が持つ集客力や多くのスポーツセンター企業等の民間企業とのつながり、また、県内における知名度や影響力など、プロスポーツクラブならではのリソースを活用し、人生100年時代において、市内全21地域が住み慣れた地域住民にとって心身共に健康で、生きがいをもって楽しく暮らし続けることができるまちとなるよう、各地域で多様で持続可能な事業展開が可能となる仕組みづくりを行うとともに、市内21地域と企業を結び付け、自立し、自走できる21地域ごとの幸せコンテンツを構築する。	<p>◆プロスポーツの集客力等を生かした全世代交流事業の実施 ・令和4年度に大学生が湯田温泉の新しい特産品として商品開発したコーヒー牛乳を、レノファのホームゲームでの販売をはじめ、MAZDAzoomzoomスタジアム広島や地元商店街で実施したクリスマスマーケット等でPR活動を実施 ・レノファ山口とつながりのある東京の企業と連携して、「レノファで繋がる山口の輪 in TOKYO」を開催し、東京在住の山口県出身者等約50人に対して、湯田温泉をはじめ、事業構想等に基づいて実施してきた事業等のPRを実施 ◆健康分野や教育分野に関わる企業、地元医療機関、大学、プロスポーツチーム等と連携した健康づくり事業の実施 ・高齢者や子育て世代を対象に温泉を活用した健康づくり「湯田温泉ヘルスラボ事業」の実施 ◆市民参加による地域の愛着醸成に寄与する事業 ・レノファ山口FCのマスコットキャラクターである「レノ丸」を活用して地域の愛着を深めるために、各地域の「ご当地レノ丸」を製作市内3地域(佐山、鋸戸町、嘉川) ◆デジタル技術を活用した多世代交流事業の実施や地域情報の発信 ・山口大学と山口県立大学の2会場同時でレノファ山口FCのアウェイ戦のパブリックビューイングを実施するとともに、オンラインで両会場の交流会を実施 ◆地域や企業が主体となった地域活性化事業の実施 ・企業との連携による地域の若者を中心としたクリスマスイベントの実施 ・大学生・若者を中心に、自由な発想でレノファ山口FCと湯田温泉を盛り上げるアイデアを考える対話から生まれたアイデアの一部についてレノファ山口をはじめ、大学や企業等と連携して実行する「レノモリプロジェクト」を実施 ◆事業実施に向けた地域人材の育成 ・今後、まちづくりのコアとなりうる大学生や地元の若者と、これまでのプロジェクトの振り返りと、「若者起点の共創まちづくり」をテーマに、今後の地域や企業等との共創のまちづくりについての対話を実施 </p>		
事業の概要(経費内訳)	<ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツの集客力等を生かした全世代交流事業の実施(3,334千円) ・健康分野や教育分野に関わる企業、地元医療機関、大学、プロスポーツチーム等と連携した健康づくり事業の実施(3,333千円) ・市民参加による地域の愛着醸成に寄与する事業(2,000千円) ・デジタル技術を活用した多世代交流事業の実施や地域情報の発信(1,333千円) ・地域や企業が主体となった地域活性化事業の実施(2,667千円) ・事業実施に向けた地域人材の育成(666千円) 		

2 本事業における重要業績評価指標(KPI)の達成状況

(1)KPIの達成状況

KPI項目		単位	事業開始前	実績値(増分) (令和5年度)	実績値(増分) (令和6年度)	目標値(増分) (令和6年度)
① 地域行事や市民活動に年1回以上参加している市民の割合	%	54.2	2.3	0.0	1.5	
② 本事業を実施する地域の増加数	地域	0	7	8	0	
③ 本事業に参画する企業数	件	0	25	22	25	
④ 本事業を通じた健康づくり等のプログラムへの参加者数	人	0	2,065	2,103	2,500	

(2)評価

本事業の実施状況について			
事業効果	本事業は地方創生に相当程度効果があった。	理由	本事業を実施する地域や、参画する企業、プログラム参加者数が増え、コミュニティの形成が進んでいるため。
実績値を踏まえた事業の今後について			
今後の方針	事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる。	理由	令和7年度完成予定の「湯田温泉パーク」での事業展開を見据え、湯田地域を中心には、レノファ山口のリソースを活用し、企業等との連携による若者を主体とした地域活性化の取組を進める中で、持続可能な事業展開に向けた仕組みづくりを進める。引き続き、他地域でも企業等と連携した持続可能な事業に発展させていくよう、地域や企業等の意見を伺いながら事業を進めていく。

「人生100年時代を楽しむ21の幸せ地域拠点づくり ～Jリーグクラブ『レノファ山口』のつなぐ力でスマート“ライフ”シティづくり～」の概要

1 事業構想に基づく事業実施

地域課題解決に向けて、レノファ山口のリソースを活用して、市民が主体となって、地域や企業等の連携により、多様で持続可能な事業展開を可能とする公民連携プラットフォームを構築するため、令和4年度に開催した地域や企業等との連携による若者を中心としたワークショップ等での意見などを踏まえ、下記のような構想を策定した。まずは、大学生を始めとした若者が集まりやすい湯田地域を中心に取組を進め、その後、こうした取組を市内21地域に展開していく。



●プロスポーツの集客力等を生かした全世代交流事業の実施

① 「mill」プロジェクト

山口大学経済学部観光政策学科の2人の学生が発案した、コーヒー牛乳を湯田温泉の新しい名物とするプロジェクトで、令和4年度に、湯田の地域おこし協力隊2人とともに、Nishida Coffee、(株)秋川牧園の協力のもと、コーヒー牛乳の開発を行った。今年度は、レノファ山口FCのホームゲームで販売とともに、MAZDA zoom zoom スタジアム広島や地元商店街で実施したクリスマスマーケットにおいて、昨年度、開発したコーヒーベース「湯田温泉 milk 珈琲」の販売を通じて湯田温泉のPR活動を行った。



② レノファで繋がる山口の輪 in TOKYO（令和7年2月27日）

レノファ山口とつながりのある東京の企業と連携して、「レノファで繋がる山口の輪 in TOKYO」を開催し、東京在住の山口県出身者等約50人に対して、湯田温泉をはじめ、事業構想等に基づいて実施してきた事業等のPRを行った。



●健康分野や教育分野に携わる企業、地元医療機関、地元大学、プロスポーツチーム等と連携した健康づくり事業の実施

① 湯田温泉ヘルスラボ事業

湯田温泉旅館協同組合と「NPO 法人山口ヘルスプロモーション」と連携し、湯田温泉ヘルスラボ事業を実施した。これは、足湯に浸かって心身を温めた後、スポーツクラブ運動指導者による運動や、保健師による食事・栄養講話、脳トレを行い、健康効果の測定を行うプログラムで、70～80代の高齢者を対象に約3か月にわたり実施し、延べ240人の参加があった。(令和7年1月9日～令和7年3月27日 全11回)

また、「NPO 法人あっと」と連携し、託児所を設置し、親子で子育て世代同士の交流が楽しめるような場づくりを行う温活プログラムを実施し、延べ100人の参加があった。(令和6年11月8日～12月6日 全8回)



●市民参画による地域の愛着醸成に寄与する事業

① 市内21地域におけるご当地レノ丸の作成

本事業構想の市内21地域への展開に向けて、まずは、各地域とレノファ山口との関係性を構築するとともに、レノファ山口 FC のリソースを活用して地域の愛着を高めるため、地域の特色を生かした「レノ丸（※）」、いわゆる「ご当地レノ丸」を製作した。各地域住民が参画する中で、令和6年度は、3地域（佐山、鋳銭司、嘉川）で完成した。

（※）レノファ山口 FC のマスコットキャラクター



佐 山



鋳 銭 司



嘉 川

●デジタル技術を活用した多世代交流事業の実施や地域情報の発信

① 各地域でのパブリックビューイングの実施

多世代交流事業として、山口大学と山口県立大学の2会場同時で、レノファ山口 FC のアウェイ戦のパブリックビューイングを行うとともに、オンラインを活用して両会場での交流会も開催し、子どもから高齢者まで約300人が参加した。（山口大学:参加者:200人 山口県立大学:参加者:100人）



山口大学



山口県立大学

2 地域における活躍の場づくり

湯田地域をモデル地域として、地域住民と企業が事業の担い手となり、主体的に地域で活躍できるような取組を展開するとともに、持続的な事業展開が可能となるように地域人材の育成を図る。

●地域や企業が主体となった地域活性化事業の実施

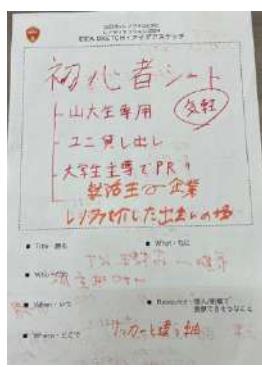
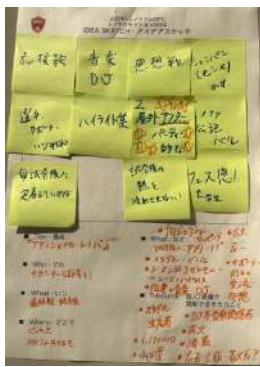
① 企業との連携による地域の若者を中心としたクリスマスイベントの開催

日本のクリスマスの発祥の地 山口市において、企業や地域等の協力をもとに、イルミネーションの設置をはじめ、ワークショップやクリスマスコンサートなど、地域の大学生が企画、運営を行い実施した。(12月21日、場所:井上公園・湯の香通り、参加者総数:480人)



② レノモリプロジェクトの実施

大学生・若者を中心に、自由な発想でレノファ山口 FC と湯田温泉を盛り上げるアイデアを考える対話を行い、ここで生まれたアイデアの一部についてレノファ山口をはじめ、大学や企業等と連携して実行した。



A) 「湯田温泉でご飯を食べてレノファ山口 FC スタンプラリー」

湯田温泉を多くの方に知ってもらうために、学生が中心となり、湯田温泉の飲食店等と連携したスタンプラリーを実施するとともに、レノファ山口 FC のホームゲーム時、レノファグッズのほかに、湯田温泉グッズ、湯田温泉の飲食店で使用できるクーポンのあるガラポン抽選会を試験的に実施した。



B) 「湯田温泉でご飯を食べてレノファ山口 FC スタンプラリー」

学生が中心となり、学生の県内企業との交流の場の創出、県内就職促進を目的に企画。「スタジアムで企業×学生のマッチング」という新たなリクルートの形を目指したイベントを実施。



●事業実施に向けた地域人材の育成

① 若者コアメンバーセッションの実施

今後、こうしたまちづくりのコアとなりうる大学生や地元の若者と、これまでのプロジェクトの振り返りと、「若者起点の共創まちづくり」をテーマに、今後の地域や企業等との共創のまちづくりについての対話を行った。



女性活躍推進を軸とした誰もが輝ける多様な職場づくり重点プロジェクト

1 事業の概要

所管課	商工振興部ふるさと産業振興課	計画期間	令和4年4月 - 令和7年3月
交付金の種類	デジタル田園都市国家構想交付金 (地方創生推進タイプ)	単独事業と 広域事業の別	市単(山口市)
基本目標	誰もが安心して働くことのできる「しごと」をつくる	基本目標	誰もが安心して働くことのできる「しごと」をつくる
具体的な施策	産業活力・地域雇用を創出する「働く・企業なら山口」	具体的な施策	若者活躍と雇用創出の環境づくり
具体的な取組	多様な働き方の創出による人材確保	具体的な取組	働きやすい職場環境づくりと未来を担う人材育成
基本目標		基本目標	
具体的な施策		具体的な施策	
具体的な取組		具体的な取組	
事業の概要(目的)		事業実施の状況	
山口県央連携都市圏域の構成市町を含めたあらゆる事業者参画のもと、就労環境の向上に向けた取組を促進し、多様な人材が活躍できる場づくりを進める。 また、女性を始め、高齢者や障がい者、就職氷河期世代に対する啓発や実効的なスキルアップ支援を併せて行うことで、就労者それぞれの実情に応じて就労できる環境、すなわち、誰もが働きたいと感じる職場環境等の構築を図る。 特に、若年、子育て世代、女性の社会進出を積極的に推進することで、地域の担い手の確保や若者の雇用創出につなげていく。		<p>(1)女性人材の掘り起こし・女性が輝き活躍できる場を創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ●働く女性の活躍応援事業 ・女性が活躍できる環境支援事業として、企業向け中小企業の意識改革セミナー ・未就労者向け多様な働き方や働く場を学ぶセミナーの実施 ・未就労又は正規雇用化を目指す女性求職者と企業の交流・就労マッチング事業の実施 ●女性の採用・活躍を積極的に推進する事業者を支援する「女性活躍職場環境改善助成金」 (2)多様な働く場の創出によるインクルーシブな社会の実現 ●人材確保企業支援事業 ・離職者向け就活リストアセミナー、就職マッチング交流会、求職者への伴走型支援実施 ●高年齢者活用のための人材確保支援事業 ・55歳以上の高齢者が活躍することを支援するセカンドライフ応援セミナーや企業との交流会の開催 ●従業員スキルアップのための研修費等の支援 ●人材確保のための情報発信事業 ・市内中小企業を対象とした採用活動に係る費用の支援 ・やまぐちしごと応援サイトコンサルティング事業 ・市内企業の情報発信事業 ●企業向け外国人労働者受入セミナー ●企業向け障がい者雇用促進セミナー ●農地所有適格法人を対象に地域の多様な担い手確保に向けた女性もしくは障がい者の雇用促進を図る「山口市経営体発展支援事業費補助金」 (3)働き方改革やデジタル化を契機とした柔軟な働き方促進と企業の生産性向上 ●働き方改革推進事業 ・市内企業を対象に、デジタル技術の導入、業務効率化、多様な働き方に対応する労務管理など働き方改革の取組として、中小機構との連携による中小企業大学校サイト等の実施 	
事業の概要(経費内訳)			
<p>(1)女性人材の掘り起こし・女性が輝き活躍できる場を創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く女性の活躍応援事業(4,000千円) ・女性活躍職場環境改善助成金(911千円) ・山口市経営体発展支援事業(1,043千円) <p>(2)多様な働く場の創出によるインクルーシブな社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保支援事業(2,000千円) ・高年齢者活用のための人材確保支援事業(994千円) ・従業員スキルアップのための研修費等を支援する補助金(687千円) ・人材確保のためのサイト運営事業(9,150千円) ・企業向け外国人労働者受け入れセミナー(62千円) ・企業向け障がい者雇用促進セミナー(500千円) <p>(3)働き方改革やデジタル化を契機とした柔軟な働き方促進と企業の生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革推進事業(130千円) 			

2 本事業における重要業績評価指標(KPI)の達成状況

(1)KPIの達成状況

KPI項目		単位	事業開始前	実績値(増分) (令和5年度)	実績値(増分) (令和6年度)	目標値(増分) (令和6年度)
①	多様な人材を積極的に受け入れる事業者数	社	56	10	13	20
②	事業を通じて採用された多様な人材の人数(女性・障がい者・高齢者・外国人)	人	0	26	113	35
③	事業への参画によって、就労意識が向上した求職者数	人	0	11	10	20

(2)評価

本事業の実施状況について			
事業効果	本事業は地方創生に効果があった。	理由	働く意欲のある女性や高齢者等を対象としたセミナー、多様な人材の確保等に係るセミナーの実施、さらに事業者に向けた職場環境改善支援や、求職者と企業との交流会等を効果的に開催することで、目標を大きく上回る多様な人材の就労につながった。
実績値を踏まえた事業の今後について			
今後の方針	事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる。	理由	事業者的人手不足が深刻化していく中、人手不足解消と多様な人材が安心して働ける雇用の場の創出を目的として、引き続き、セミナー、交流会の実施や、多様な人材の採用に積極的な事業者の支援を行う。加えて、市内企業の魅力をより効果的に発信する取組を進めていく必要がある。

「女性活躍推進を軸とした誰もが輝ける多様な職場づくり重点プロジェクト」の概要

<女性人材の掘り起こし・女性が輝き活躍できる場の創出>

●働く女性の活躍応援事業

・山口市女性しごと応援プログラム「YAMAGUCHI わたしここからプログラム」

女性が働くことを前向きに捉え、それぞれの希望をかなえて「わたしらしく」働くための第一歩を支援するとともに、誰もが生き生きと働ける地元企業の職場環境づくりに取り組む事業。

1 女性向け支援

「自分の強みを発見！キャリアデザインセミナー」

子育てと仕事の両立期だからこそ得られる経験や視点をこれから
のキャリアに活かす視点を学ぶとともに、参加者同士の交流を通じ
て就労意欲を高める目的のセミナーを実施した。

【参加者数】9名



「最新のIT事情を知ろう！IT・SNS活用セミナー」

SNSをはじめとする最新のIT事情とSNS活用の重要性について
学び、就労に向けた自信を高めるためのセミナーを実施した。

【参加者数】9名



「働く私へシフトチェンジ！ビジネスマナーセミナー」

ワンランクアップのビジネスマナーや話し方を体得し、就労に向けて自分に磨きをかけるコミュニケーション術を身に着けるためのセ
ミナーを実施した。

【参加者数】9名



2 企業向け支援

「女性活躍推進のためのセミナー＆ワークショップ」

中小・小規模事業者を対象に、女性の就労環境の改善、男性の子育
て参画・意識改革を目指し、男女が共に活躍できる職場環境づくりを
実現するために企業が取り組む計画や制度について学ぶとともに、育
休中・子育て中の方等との意見交換を通じて子育て世代のニーズに沿
った職場環境の整備について考えるセミナー・ワークショップを実施。

【参加者数】19名(セミナー:11名、ワークショップ8名)

【参加企業数】15社(セミナー:10社、ワークショップ5社)



「専門家による個別相談」

女性活躍や人材育成に関する企業の個別課題を社会保険労務士や
キャリアコンサルタントの専門家がオンラインでヒアリング、課題改善に
向けたアドバイスを行う個別相談を実施。

【参加企業数】5社



3 企業と求職者の交流会

「YAMAGUCHI ジョブカフェ」

働きたいと思える会社に出会う「働きたい女性」と「女性が活躍できる企業」との交流会を実施した・

【求職者数】16名

【企業数】10 社



●女性が活躍できる環境支援事業

・山口市女性活躍職場環境改善助成金

市内の中小企業を対象として、働く意欲を持つ女性が、能力を伸ばしながら生き生きと働く職場環境の整備を目指し、企業のトイレや更衣室等の施設改修や意識啓発などの取組を支援した。

【助成限度額】30万円、【助成率】1/2【補助件数】3件

・山口市経営体発展支援事業費補助金

農地所有適格法人を対象に地域の多様な人材確保に向けた女性もしくは障がい者の雇用促進を図るため、当該法人が行うトイレや更衣室等の施設改修の取組を支援した。

【助成限度額】200万円、【助成率】4/10、【補助件数】1件



<多様な働く場の創出によるインクルーシブな社会の実現>

●人材確保企業支援事業

・「ライフ＆マネープランニングセミナー」の実施

就活リスターとセミナー実施前のプレゼンテーションとして、就職氷河期世代を始めとした正社員への転換を目指す労働者や転職を考えている労働者、離職中の方を対象に、マネー設計の基礎を知り働く準備を始め、自分のライフスタイルに合わせた働き方を学ぶセミナーを実施した。

【参加者数】10名



・「就活リスタートセミナー」の実施

就職氷河期世代を始めとした正社員への転換を目指す労働者や転職を考えている労働者、離職中の方を対象に、「ビジネスマナー講座」、「Canva 講座」、「キャリアガイダンス」などを開催した。

【参加者数】9名



・圏域内企業との交流会の実施

最終的に企業と労働者の間での雇用のミスマッチが生じない就職に結びつけることを目的とし、人材確保に積極的に取組む圏域内の企業と、本事業において正社員になるためのスキルを身に着けた正社員希望の労働者等との交流会を実施した。

【参加者数】10名

【参加企業数】9社



●高齢者活用のための人材確保支援事業

・「アクティブシニア向けセカンドライフ応援セミナー」の実施

55歳以上の高齢者がこれまでの経験を活かし、生涯現役で活躍できる社会の実現のため、現在未就労の元気な高齢者（アクティブシニア）を対象に就労意欲を喚起するセミナーを実施した。

【参加者数】39名



・アクティブシニアと企業との面談会の実施

働く意欲と元気のある高齢者と、人材確保に取り組む地元企業との面談会を実施した。

【参加者数】39名

【参加企業数】18社



●従業員のスキルアップのための研修費等を支援する補助金

・従業員スキルアップのための研修費を支援する補助金

企業の既存の従業員の育成や職場定着につなげるため、業務上必要なスキル取得やリカレント教育に係る研修費や講師料の一部を支援した。

【助成限度額】従業員 1 人につき 5 万円、1 企業につき 20 万円

【助成率】1/2、【補助件数】22件



●人材確保のための情報発信事業

・中小企業採用活動支援補助金

市内中小企業等の人材確保に向けて採用力の強化を図ることを目的に採用活動の係る経費の一部補助を実施した。

【対象経費】

①求人情報サイトの利用料又は人材紹介サービス（派遣などの正社員以外の紹介は除く）の紹介手数料②外国人材受入れに係る初期費用③採用ホームページの作成や改修にかかる経費、企業紹介動画の制作にかかる経費④企業説明会等（オンラインも含む）の実施又は出展にかかる経費

【補助率・補助上限額】

①～③2分の1、補助上限額 100 千円

④2分の1、補助上限額 50千円

【助成率】1/2

【補助件数】59件

・やまぐちしごと応援サイトコンサルティング事業

求職者が働くイメージを想像するための市内企業の情報を、取得しやすく、また市内中小企業の認知度を高め人材の確保に寄与するため開設した「やまぐちしごと応援サイト」のリニューアル及びプロモーション動画を製作し、サイトの操作性向上、アクセス数の増加を図るとともに、本サイトから企業の採用情報へのアクセス性向上を図った。

●企業向け外国人労働者受け入れセミナー

外国人雇用に関する基礎知識の習得と、多様な働き手のひとつである外国人材の雇用を通じた企業価値の向上による雇用の促進に向けたセミナーを実施した。

・外国人雇用セミナー

第1部「外国人技能実習制度について」

第2部「外国人材の現状・課題・対応策:コミュニケーションの観点から」

【参加企業数】9社



・独立行政法人日本貿易振興機関(ジェトロ)山口共催セミナー

「外国人材の採用・育成/定着のコツ」

【参加企業数】9社

●企業向け障がい者雇用促進セミナー

障がい者の特性や支援方法などの具体的な手法等を学ぶ障がい者スタッフとのトークセッションや障がい者雇用の事例紹介と、参加企業と就労支援事業所とのワールドカフェ形式による意見交換会を実施した。

【参加企業数】11社

【参加就労支援事業所4社】



<働き方改革やデジタル化を契機とした柔軟な働き方促進と企業の生産性向上>

●中小機構との連携による「中小企業大学校サテライトゼミの実施

中小機構との連携による「中小企業大学校サテライトゼミ」計2回を実施した。

第1回「中小企業における人材育成の考え方と進め方」

【参加者数】6名

第2回「業務マニュアルのつくり方・活かし方」

【参加者数】16名

関係人口の創出による農山村エリア活性化プロジェクト

1 事業の概要

所管課	農林水産部農山村づくり推進課	計画期間	令和4年4月 - 令和9年3月
交付金の種類	デジタル田園都市国家構想交付金 (地方創生推進タイプ)	単独事業と 広域事業の別	市単(山口市)
基本目標	山口の魅力に磨きをかけ、新たな「ひと」の流れをつくる	基本目標	誰もが安心して働くことのできる「しごと」をつくる
具体的な施策	21地域づくりと農山村活性化	具体的な施策	若者活躍と雇用創出の環境づくり
具体的な取組	農山村エリアの地域活性化	具体的な取組	多様な雇用の場の創出
基本目標		基本目標	
具体的な施策		具体的な施策	
具体的な取組		具体的な取組	
事業の概要(目的)		事業実施の状況	
本市の農山村エリアの地域資源を活用し、新たな人の流れを呼むため、地域外からの観光交流や地域のファンを増やす交流人口の増加に向けた取組や、移住・定住促進の取組を強化する。また、交流から定住へとつなげるため、新たに「関係人口」の創出に向けた取組を進める。併せて、農山村エリアの基幹産業である農林水産業の振興を図ることで、農山村エリアにおける就業の場を確保する。こうした取組を進めることで、農山村エリアの人口減少に歯止めをかけ、地域課題の解決や地域活力の向上につなげ、元気な農山村エリアの実現を目指す。	(1)交流人口の拡大 ・地域資源を活用した各種イベントの開催支援、アウトドアやスポーツのツーリズムの開催支援 ・農林水産物の販売イベントの開催や、農山村エリアにおける起業・創業、新規事業開拓への支援 ・重源の郷体験交流公園や道の駅の機能強化に向けた取組の実施 (2)関係人口の創出、移住・定住の取組による持続可能な農山村エリアの形成 ・関係案内人の育成や地域の関わりしろの体験プログラムの開催 ・移住・定住の促進に向けたプロモーション活動(移住フェアやガイドブックの発行、ウェブサイト「すむ住む山口」やSNSでの発信等 ・空き家・空き地バンク制度の運用や、空き家を活用した交流事業の開催にかかる支援 (3)農林水産業の振興 ・スマート農機導入に向けた支援 ・省力化につながる農業用施設や農機具の導入に向けた支援 ・道の駅の出荷量増加に向けた野菜等栽培に係る講習会開催 ・やまのいもや椎茸の担い手育成に向けた取組の支援		
事業の概要(経費内訳)	(1)交流人口の拡大(38,555千円) (2)関係人口の創出、移住・定住の取組による持続可能な農山村エリアの形成(19,694千円) (3)農林水産業の振興(39,285千円)		

2 本事業における重要業績評価指標(KPI)の達成状況

(1)KPIの達成状況

KPI項目		単位	事業開始前	実績値(増分) (令和5年度)	実績値(増分) (令和6年度)	目標値(増分) (令和6年度)
①	本事業を通じて農山村エリアへ移住した人数	人	198	24	23	12
②	農山村エリア等における人口の転出超過の抑制 (農山村エリア等の社会動態)	人	-208	66	40	40
③	関係案内人の育成数	人	0	3	5	0
④	農山村エリア(過疎地域)の交流人口	人	701,923	-21,088	118,310	40,000

(2)評価

本事業の実施状況について			
事業効果	本事業は地方創生に非常に効果があった。	理由	本事業の取組により、KPI①～④のすべてで目標値を達成し、農山村エリアへの移住者数の増加と転出超過の抑制が図られたため。
実績値を踏まえた事業の今後について			
今後の方針	事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる。	理由	歴史文化施設や観光施設のリニューアル、都市農村交流イベント等の開催を通じた市内産農産物のPR及び生産者と消費者の交流等により、更なる地域資源の魅力を向上させ、関係人口の創出拡大や移住・定住を促進することで、持続可能な農山村エリアの形成を図る必要があるため。

「関係人口の創出による農山村エリア活性化プロジェクト」の概要

<交流人口の拡大>

■地域資源を活用した交流の創出

●中山間地域魅力活用事業 「地福クリスマスツリー活用魅力創出」

子どもたちを楽しませたい想いから、地元有志が阿東地域交流センター地覆分館の2本の木の電飾を始めて以降、30年続く冬の風物詩となったイルミネーションイベントの活動を支援した。

点灯イベント:令和6年12月21日(日)

点灯期間:令和6年12月21日～令和7年1月13日



■都市農村交流の促進

●農林水産物を活用した情報発信事業 「あぐまるやまぐちの実施」

新山口駅等において、市内産農林水産物の定期的な販売イベント「あぐまるやまぐち」を実施した。対面販売を通じて、生産者や加工業者と消費者である山口市民を直接つなぎ、市内産農林水産物の認知度を高めるとともに、都市部との交流機会の創出や交流人口の増加を図った。また、10月19～20日は、山口市内で新米PRイベントを行い、山口市産の新米の認知度向上を図った。



開催期間:令和6年4月20日～令和7年3月15日(12回)

開催場所:平成公園新山口駅北口



●農山村ビジネス創出支援事業 「農山村地域活性化ビジネス支援事業」

農山村エリアの地域資源を活用し、地域における雇用や地域内への経済波及効果の創出、地域課題の解決など地域の活性化を図る事業に対して支援を行った。

審査委員会の開催:1回

認定事業:2事業 (10, 959千円)

事業者名	事業名	地域
UNDERSCORE BASE 株式会社 伊藤 博明	名田島に食堂を！マルシェを！名物スイーツを！ 「食べる」を通じて、新たな価値を創造する事業	名田島
特定非営利活動法人ほほえみの郷トイトイ 理事長 長安 正巳	ゲストハウスを拠点とした関係人口創出プロジェクト	阿東

<関係人口の創出、移住・定住の取組による持続可能な農山村エリアの形成>

■関係人口創出促進事業

●企業と地域の関わり創出事業

本市に関わりを持ちたいと考える県外の企業を招き、参加者と共にローカルビジネスについて学ぶセミナーやフィールドワーク、ワークショップ等の実施を通じて、県外企業と農山村エリアを中心とする市内事業者の継続的な関わりを構築した。

実施日	テ　ー　マ	参加者
11月1日	第1回講座 人手不足の地域におけるこれからの生存戦略 ゲスト 坂口 剛 氏(野村総合研究所 未来創発センター エキスパート研究員／東京)	18名
11月15日	第2回講座 ローカル企業が全国で輝く商品づくりに取組むための差別化事例 ゲスト 加瀬 宏行 氏(株式会社セガワ 代表取締役／千葉)	12名
12月4日	第3回講座 伝わるから伝えるへ～魅力や個性の可視化① ゲスト 岡山 史興 氏(too-inc. 代表取締役／富山)	9名
12月19日	第4回講座 伝わるから伝えるへ～魅力や個性の可視化② ゲスト 坂口 剛 氏(野村総合研究所 未来創発センター エキスパート研究員／東京)	7名



■移住・定住の促進に向けた取組

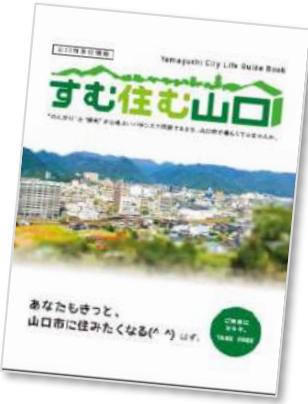
●移住者の定着化や定住実現に向けたプロモーションの取組

「やまぐち定住実現プロモーション事業」

都市部の住民の地方移住への関心が高まる中、移住や移住者の就労に関する情報をまとめたガイドブックやSNS等を活用した情報発信などのプロモーションを実施するとともに、大都市圏で開催される移住希望者向けのフェアやセミナーへ参加し、移住相談を行うことにより、移住促進を図った。

フェア等参加回数 9回(東京6回、大阪3回)

フェア等相談対応件数 106組132名



<農林水産業の振興>

■経営基盤の強化と担い手の育成

●スマート農機の導入促進 「スマート農機等の導入」

農業従事者の高齢化に伴う労働力不足の課題解決及び農業経営の効率化や生産性向上を図ることを目的として、地域農業の中心となる認定農業者又は農地所有適格法人が行う ICT や AI、ロボット技術等の先端技術を活用したスマート農業技術を導入する取組に対し、支援を行った。

支援対象経営体数:13 経営体

導入スマート農機:高性能田植機 1台

自動操舵システム付トラクター 3台

自動操舵システム付コンバイン 1台

食味収量センサー付コンバイン 1台

ハウス環境制御システム 1台

農業用ドローン 3台

ラジコン草刈機 1台

アシストスーツ 1台

GPS ガイダンス付乗用管理機 1台



「山口ゆめ回廊」観光を基軸とした交流価値共創プロジェクト ～観光交流から移住・定住へ～

1 事業の概要

所管課	交流創造部観光交流課	計画期間	令和4年4月 - 令和9年3月
交付金の種類	デジタル田園都市国家構想交付金 (地方創生推進タイプ)	単独事業と 広域事業の別	広域 (山口市、宇部市、萩市、防府市、美祢市、山陽小野田市、 島根県津和野町)
基本目標	地域の特性に応じた持続可能な都市圏・生活圏の形成	基本目標	
具体的な施策	元気な県都づくり	具体的な施策	
具体的な取組	広域県央中核都市づくり	具体的な取組	
事業の概要(目的)	事業実施の状況		
新型コロナウイルス感染症の流行以降の人々の意識の変化やデジタル化の進展などの社会の変化を踏まえ、新しい旅のスタイルであるテレワーク、ワーケーション、プレジャーなどへの対応や、「KDDI維新ホール」等を活用したMICE誘致によるビジネス誘客、インバウンド誘客の推進などに取り組むことで、交流人口の回復と更なる拡大につなげるとともに、山口県央連携都市圏域を構成する7市町と連携し、より質の高い観光地域づくりを行うことで、観光目的地として選ばれる「山口ゆめ回廊」の実現を図る。 また、こうした観光客を始めとした交流人口について、新たな交流への深化・交流の質的転換を図る取組を展開することで、地域との関わり合いや地域づくりへの参画を求める「関係人口」の創出や、移住・定住につなげていく。			
事業の概要(経費内訳)	<p>(1) 新しい生活様式や行動様式等社会変化に対応した持続可能な新たな交流の創造【111,161千円】 (1)-① 新しい生活様式や行動様式等社会変化に対応した新たな人流創出(51,506千円) (1)-② KDDI維新ホール等を活用した新たな交流創出(59,655千円)</p> <p>(2) 住んでよし、訪れてよしの観光地域づくりを通じた多様な交流創造事業【26,848千円】</p> <p>(3) インバウンド誘客から創出する「まちの賑わい」創出事業【36,306千円】</p>		

2 本事業における重要業績評価指標(KPI)の達成状況

(1)KPIの達成状況

KPI項目		単位	事業開始前	実績値(増分) (令和5年度)	実績値(増分) (令和6年度)	目標値(増分) (令和6年度)
①	MICE誘致件数	件	42	143	167	30
②	着地型観光プログラム造成件数	件	0	29	30	14
③	外国人観光客数	人	24,164	101,081	118,065	24,164

(2)評価

本事業の実施状況について			
事業効果	本事業は地方創生に相当程度効果があった。	理由	ニューヨークタイムズ紙掲載を機に高まった本市の知名度の高まりを好機と捉え、本事業におけるターゲット国への効果的な誘客プロモーションを実施したこと、外国人観光客の誘客拡大につながった。 また、「KDDI維新ホール」を活用したMICE誘致活動の強化や、山口市ならではの着地型観光プログラムの造成など、本市の魅力を生かした幅広い事業展開により、KPIを達成することができた。
実績値を踏まえた事業の今後について			
今後の方針	事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる。	理由	ニューヨークタイムズ紙掲載や、スイス観光賞の受賞により、山口市の知名度が上昇しており、インバウンド誘客を行うまたとない機会が到来している。さらには、大阪・関西万博や山口デスティネーションキャンペーンなど大型誘客イベントの機会をとらえ、第2期山口県央連携都市圏域ビジョンに基づく7市町の連携を生かしながら、国内大都市圏やインバウンドの誘客拡大に取り組むことで、持続可能な観光地域づくりを進める。

「『山口ゆめ回廊』観光を基軸とした交流価値共創プロジェクト ～観光交流から移住・定住へ～」の概要

(1)新しい生活様式や行動様式等社会変化に対応した持続可能な新たな交流の創造

(1)-① 新しい生活様式や行動様式等社会変化に対応した持続可能な新たな人流創出

●7市町消費喚起型周遊促進「リアル宝探し」イベント

7市町に設置された宝箱を探し、地域内の観光地等を周遊するイベント。

開催期間 令和6年9月13日～12月27日

参加者数 約17,500人



●7市町住民向け周遊促進キッズサマーパス

圏域内対象17施設において、夏休み期間中、圏域住民の小人料金の減免を実施。

開催期間 令和6年7月19日～9月1日

利用者数 2,184名



●7市町食の周遊促進事業 7市町の食のコンテンツの魅力発信

○食の周遊促進Instagram「7ちよる」の運用（令和4年8月5日～）



「7ちよる」の主要成果 *ゆめはくInstagram(フォロワー数約200件)のアカウントを継承。（R7.3.1時点）

▽フォロワー数: 2,571人 ▽投稿数: 882

総リーチ数 438,428人

▽フォロワーの居住地域: ①山口市 ②宇部市 ③防府市 ④広島市 ⑤大阪市

・「食関連イベント」情報の発信

7市町の観光部局・コンベンション協会が主催する食事業を始め、各市町観光協会会員・民間事業者のイベント紹介を実施。

・「食の周遊マガジン」の発信

2つの市町をまたぐ食の“周遊プラン”を7回企画し、実際にInstagramインフルエンサー2名がその実体験を投稿。よりリアルな食による周遊とその魅力を伝えた。

・「食の周遊」プレゼント(LINEクーポン)企画

上記の「食の周遊マガジン」の実際の周遊顧客を増やすために、“周遊プラン”に含まれる飲食店や店舗のデジタルクーポンが抽選で当たる企画。応募はLINE経由(山口カレンダー公式LINE)で実施。

○7市町山口の旬を味わう美食会

7市町の食材を使った新ご当地グルメを開発・披露

日時: 令和6年11月9日 昼の部・夜の部／2回開催

場所: 宇部市明徳

メイン食材: 車海老、宇部牛

参加者: 35人



●「山口ゆめ回廊」着地型観光を生かした交流人口拡大事業

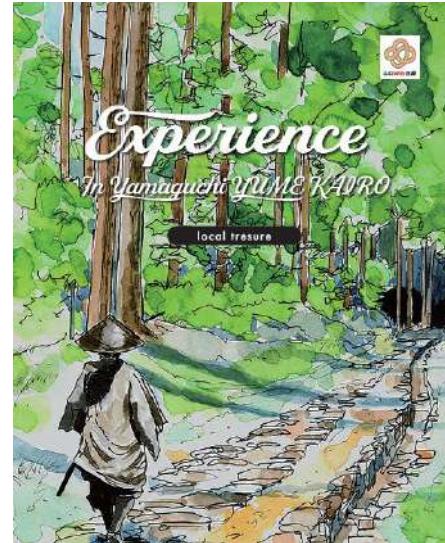
山口ゆめ回廊博覧会を契機として生まれた着地型観光プログラム「ゆめ散歩」を軸に、国内外からの更なる来訪者拡大を図るため、プログラム開発、プラッシュアップ、PRを行うもの。

【参画事業者数：29団体（山口市5、宇部市4、萩市6、防府市2、美祢市4、山陽小野田市4、津和野町4）】

○プラットフォームに参画する事業者が提供する着地型観光コンテンツの魅力を伝えるプロモーション動画を制作

○インバウンド向けガイドブックの制作

○ツーリズムEXPOジャパン（東京ビッグサイト）に出演



●デジタルプロモーション・マーケティング観光 DX 事業

Instagram「山ちよる」を活用して、1to1でつながるSNS機能を生かした顧客個人ニーズの把握と、ニーズを踏まえた本市への誘客情報の発信を実施。市内で起こっている出来事（官民イベント）を発信し、何度も訪れたくなる山口市を目指し投稿。

また、山口市内で「いつ」「どこで」「どんなイベント」があるかカレンダー形式で分かれるwebサイト「山口カレンダー」を開設し、市民や旅行者の「ニーズ」「興味」「属性」にあった情報を検索できることとした。

Instagram「山ちよる」の主要成果		(R7.3.15 時点)
▽フォロワー数	10,208 人	
▽投稿数	フィード 114 回／リール 64 回	
▽総リーチ数	391,474／年	
▽総インプレッション数	2,370,399／年	

山口市内の官民イベント情報をカレンダー化



(1) - ② KDDI維新ホール等を活用した新たな交流創出

●地域資源を生かしたビジネス誘客・交流創出事業

市内MICE会場(KDDI維新ホール、ユニークベニュー会場等)を生かしたビジネス誘客、交流創出。

MICE 誘致件数 209 件

延べ来場者数 167,500 人 (参考:令和 5 年度 185 件 158,169 人)



●本市を拠点にした守護大名大内氏の美しき歴史遺産を生かした歴史文化プランディング事業

○第 2 弾プロジェクトマッピング「昇華-shoka-大内文化」

改修中の国宝瑠璃光寺五重塔を覆うデザインシートを舞台に、第 2 弾プロジェクトマッピングを開催。今回の作品は、世界的に活躍する舞台芸術監督 森弘一郎氏が監修し、大内氏の過ごした時間を「四季」に見立て、冬・春・夏・秋の映像と音楽で大内文化の世界観を表現しました。また、香山公園塔影の池東側の通路では、人の動きに合わせて季節の演出が変化するプロジェクトマッピングを作成。

期間 令和 6 年 9 月 8 日(日)～令和 7 年 1 月 3 日(金)



○山口ゆらめき回廊【来場者数 2日開催 約 9,500 人(参考:令和5年度 1日開催 約2,800人)】



○山口着物DEお散歩(一の坂川～中心商店街)【参加者数:346 名(参考:令和 5 年度 581 名)】



(2)住んでよし、訪れてよしの観光地域づくりを通じた多様な交流創造事業

●JRと連携した体験参加型のエリア観光価値向上プロジェクト「山口のお宝 HUNTERS」

JR山口線沿線の観光資源等を活用した謎解きやクエスト等のミッションをクリアしながら、周遊を楽しむ体験参加型イベント、JR山口線の利用促進、乗車特典による列車旅の魅力を発信、沿線の周遊価値の創出の取組を行った。

開催期間 令和6年8月9日(金)～令和7年3月2日(日)

参加者 763名(クエスト総クリア数 3,947件)

一人当たり平均消費単価 34,207円



●山口市観光循環タクシーの実証運行

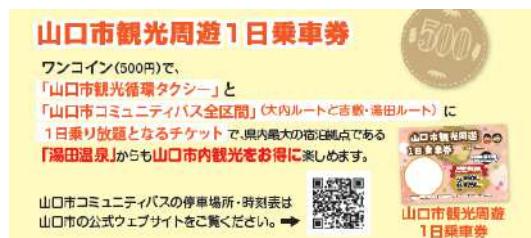
NYタイムズの記事掲載を受け、JR 山口駅から香山公園を経由し、大内文化特定地域内を周遊する「山口市観光循環タクシー」の実証運行を行った。また「山口市観光循環タクシー」と「山口市コミュニティバス全区間」1日乗り放題となる観光周遊乗車券を販売した。

1日乗車券販売

実施期間: 令和6年3月16日～令和7年3月31日

利用者数 2,766名

一日乗車券販売数 929枚



(3)インバウンド誘客から創出する「まちの賑わい」創出事業

●自治体間観光交流パートナー協定に基づく誘客連携促進・交流創出事業

「美祢市・山口市観光交流パートナー協議会」の事業の一環として、美祢市・山口市を始めとする山口県の認知度向上やインバウンド事業において重点ターゲット地域の一つと位置付け、これまでも交流を進めてきた台湾からの旅行客の誘致につなげる取組を実施。

日時 令和6年11月2日(土)～11月3日(日)

会場 台湾 台北市内

内容 (1)「2024台北温泉祭り」における、開幕式セレモニー、パレード等への参加

(2)イベント開催中における観光プロモーションブースの出展(2日間)

・山口市(美祢市)の日本酒等試飲によるPRブース

・観光PRブース(パンフレット配布、旅行商品の紹介、アンケート実施等



●訪日外国人誘客業務

○ニューヨーク・タイムズ紙掲載を契機として高まった本市の知名度を活かしたプロモーション

ゴールデンルートからの誘客に対応するため、関西空港内及び、京都タワー内の関西インフォメーションセンターにて、関西圏を訪れるインバウンドに本市の観光プロモーションを行った。



関西ツーリストインフォメーションセンター(関西国際空港内)



関西ツーリストインフォメーションセンター(京都タワー内)

地域経済を支える地元企業人材確保プロジェクト

1 事業の概要

所管課	商工振興部ふるさと産業振興課	計画期間	令和6年4月 - 令和8年3月
交付金の種類	デジタル田園都市国家構想交付金 (地方創生推進タイプ)	単独事業と 広域事業の別	市単(山口市)
基本目標	誰もが安心して働くことのできる「しごと」をつくる	基本目標	誰もが安心して働くことのできる「しごと」をつくる
具体的な施策	産業活力・地域雇用を創出する「働く・企業なら山口」	具体的な施策	若者活躍と雇用創出の環境づくり
具体的な取組	多様な働き方の創出による人材確保	具体的な取組	働きやすい職場環境づくりと未来を担う人材育成
基本目標		基本目標	
具体的な施策		具体的な施策	
具体的な取組		具体的な取組	
事業の概要(目的)	事業実施の状況		
地元企業や誘致企業が就職を意識する大学生等に対して、効果的なインターンシップを提供できる環境を構築し、より深く企業の魅力を体験してもらうことや、地元中高生に対して、地元企業等と出会える場や企業からの魅力発信の機会を創出し、企業の採用力や学生の地元企業の認知度の向上を図ることで、地元企業で働くという選択肢を提示し、本市の課題である若者的人材流出に歯止めをかける。			
また、事業承継を支援することによる雇用の場の確保を図るとともに、若者の職場定着に向けた取組を実施することで、県内就職率の向上や正規雇用の促進につながり、ひいては、本市の課題である人手不足の解消を図る。			
さらに、デジタル技術を活用した省人化・省力化に向けた取組を支援することで、目下の人手不足の対応を図り、雇用の受け皿となる市内企業の事業継続、経営基盤強化による土台を構築することで、より効果的な人材確保につなげていく。			
事業の概要(経費内訳)			
(1)雇用の受け皿となる中小企業の人材確保力等の強化に向けた取組 ・地域企業魅力体験支援モデル事業(6,567千円) ・地元企業魅力発信事業(22,000千円) ・マッチング事業承継支援事業(3,004千円) ・若手社員の職場定着支援事業(951千円) ・省人化・省力化促進事業(4,467千円)	(1)雇用の受け皿となる中小企業の人材確保力等の強化に向けた取組 ●地域企業魅力体験支援モデル事業 ・企業向けのインターンシップ設計・実践の伴走支援、大学生等を対象とした地元企業訪問プログラム(ロケハンツア)の実施 ●地元企業魅力発信事業 ・中高生等を対象とした職業体験イベント「やまぐち未来のしごとフェスタ」の開催 ●マッチング事業承継支援事業 ・事業承継に関するセミナー、専門家派遣の支援、事業承継マッチングサイト掲載支援の実施 ●若手社員の職場定着支援事業 ・若手社員の地元企業定着率向上に向けたセミナー・交流会の開催 ●省人化・省力化促進事業 ・機器等の導入により、省力化・省人化に取り組む事業者に対し、導入費用の一部を支援		

2 本事業における重要業績評価指標(KPI)の達成状況

(1)KPIの達成状況

KPI項目		単位	-	事業開始前	実績値(増分) (令和6年度)	目標値(増分) (令和6年度)
①	地域における新規雇用者数	人	-	1,200	3	100
②	人手が充足していると回答した企業の割合(市内企業等へのアンケート)	%	-	52.6	-2.2	2
③	マッチング事業承継支援事業によりマッチングした企業数	社	-	0	0	2
④	地元企業に就職したい割合(本事業の参加者アンケートにおける「就職したい」「検討したい」等の肯定的な項目を選択した人数/回答人数)	%	-	0	81	60

(2)評価

本事業の実施状況について			
事業効果	本事業は地方創生に相当程度効果があった。	理由	学生による地元企業の魅力発見プロジェクトや企業が実施するインターンの伴走支援、職業体験イベントなど、企業の魅力を体験できるイベントや企業向けセミナー等を実施することで、地元企業の認知度向上や採用力の強化につながった。
実績値を踏まえた事業の今後について			
今後の方針	事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる。	理由	若者の市内就職促進を図るため、引き続き、地元企業の採用力を強化し、大学生等の若者に地元企業の魅力を体験してもらうことを目的としたセミナーや交流会等を実施する。また、人手不足の解消を図るため、事業承継や若手社員の定着、省人化・省力化に取り組む事業者の支援を継続する。

「地域経済を支える地元企業人材確保プロジェクト」の概要

<雇用の受け皿となる中小企業の人材確保力等の強化に向けた取組>

●地域企業魅力体験支援モデル事業

1 採用力向上セミナー

「キレイゴトぬきの就活&採用論」

最新の採用動向や実践できる広報の方法など採用に関するセミナーと大学生とのディスカッションを実施した。

【参加者数】企業17社、学生7人



2 専門家チームの伴走支援

学生と専門家がヒアリングを行い、採用活動等の課題を整理の上、
インターンシッププログラムの設計支援を行った。

【参加者数】企業8社

3 企業の魅力再発見ツアー

「ロケハンツアー」

学生が市内企業をめぐって取材し、それぞれの企業が持つ魅力を知るためのバスツアー、ワークショップ及び学生による企業紹介プレゼンテーションを行った。

【参加者数】

バスツアー:企業11社、学生15人(のべ20人)

企業へのプレゼン発表会:企業 11社、学生9人



4 企業紹介情報誌の作成

幅広く市内企業の情報を収集できる「やまぐちしごと応援サイト」に学生を誘導するため、「やまぐちしごと応援サイト」登録企業のうち、令和8～9年卒の新卒採用を目指す10社に取材を行い、学生目線で魅力ある企業紹介情報誌を作成した。



●地元企業魅力発信事業

・やまぐち未来のしごとフェスタ

地元企業との出会いや、実際に働く企業人と接する機会を設けることで、さまざまな仕事に対する興味を引き出すとともに、山口で働く魅力を感じてもらい、中期的な視点での市内学生の人材育成や地元就業の意識を醸成し、同時に市内企業の魅力の向上を図ることを目的とする職業体験イベントを実施した。



さらに、会場集合型の開催に加え、オンライン開催として、ウェブサイトに山口県央連携都市圏域内の企業紹介動画を掲載し、企業研究・職業研究として中高生や県外の大学生に視聴してもらうことにより、圏域を中心としたより広い範囲の地元活躍企業を一度に知る機会を提供し、広く情報発信を行った。

【参加者数】

中高生、教員、一般:2,958人
企業:会場45社、オンライン64社

●マッチング事業承継支援事業

・事業承継セミナーの実施

山口県央連携都市圏域(山口市、宇部市、防府市、萩市、山陽小野田市、美祢市)の商工団体と行政が連携し、多くの中小企業が抱える「経営者の高齢化」や「後継者不在」の課題に対し、円滑な事業承継に向けたセミナーを実施した。

【参加者数】97名



・事業承継・後継者育成セミナーの実施

多くの市内企業経営者が抱える「後継者の経営能力」の課題に対し、後継候補者が経営を引き継ぐ上で必要な基礎知識や、社長としての心構え、準備しておくことが学べるセミナーを開催した。

【参加者数】セミナー:10名、個別相談2名

・事業承継個別相談会

山口県事業承継・引継ぎ支援センターと連携し、中小企業経営者・個人事業主が、様々な経営の課題やお悩みを専門家に無料で相談できる個別相談会を実施した。

・専門家派遣・助成金

専門家派遣による相談支援、事業承継の準備段階となる専門家による自社株の評価や相続税試算、事業承継計画の策定やオープンネームマッチング等に対する助成を実施した。

【助成件数】21件

●若手社員の職場定着支援事業

・「若手社員の職場定着支援セミナー」の実施

市内企業に在籍する若手社員(概ね入社5年以内)の人材育成と職場定着を図るため、自社で研修制度を持たない企業の若手社員向けの研修向けのセミナーを3回実施した。

【参加者数】

第1回:15名

第2回:14名

第3回:18名



●省人化・省力化促進事業

・中小企業省人化・省力化機器導入支援補助金

市内中小企業の人手不足の解消と業務の効率化を図るために、人が行う業務を代替する機器等の導入経費の一部補助を実施した。

【助成限度額】50万円

【助成率】1/2

【補助件数】15件



道の駅「仁保の郷」の機能強化による地域経済活性化プロジェクト

1 事業の概要

所管課	農林水産部農山村づくり推進課	計画期間	令和6年4月 - 令和7年3月
交付金の種類	デジタル田園都市国家構想交付金 (地方創生拠点整備タイプ)	単独事業と 広域事業の別	市単(山口市)
基本目標	誰もが安心して働くことのできる「しごと」をつくる	基本目標	
具体的な施策	若者活躍と雇用創出の環境づくり	具体的な施策	
具体的な取組	多様な雇用の場の創出	具体的な取組	
基本目標		基本目標	
具体的な施策		具体的な施策	
具体的な取組		具体的な取組	
事業の概要(目的)	事業実施の状況		
仁保地域の道の駅「仁保の郷」の増築・改築、休憩機能の強化を行うことで、来場者の更なる増加、農産物直売所における地元農産物の販売促進につなげ、仁保地域における生産者や事業者の所得向上や、基幹産業である農業の担い手確保、地域における新たな雇用の創出等により地域経済の活性化を図る。	<p>・令和6年度に道の駅「仁保の郷」の農産物直売所・レストランの増築工事、多様なイベントの開催可能な多目的デッキの改修を行った。令和7年4月に農産物直売所、8月にレストランがオープンした。</p> <p>・令和7年度は交付金対象外事業として、本館棟の老朽化対策、事務所・トイレの模様替え、駐車場の拡張などを行っている。施設の全面オープン時期は、令和8年4月を予定している。</p>		
事業の概要(経費内訳)			
・道の駅「仁保の郷」の増築・改築(313,123千円) ・建物周辺整備(9,331千円) ・厨房機器、住基、備品等購入(28,468千円) ・建物解体工事(15,331千円)			

2 本事業における重要業績評価指標(KPI)の達成状況

(1)KPIの達成状況

KPI項目		単位		事業開始前	実績値(増分) (令和6年度)	目標値(増分) (令和6年度)
①	地域における農林水産出荷額	千円	-	192,036	44,438	0
②	道の駅「仁保の郷」の来場者数	人	-	696,282	56,418	0
③	道の駅「仁保の郷」の農林水産出荷者数	事業者	-	290	24	0

(2)評価

本事業の実施状況について			
事業効果	本事業は地方創生に非常に効果があつた。	理由	令和6年度は工事中であったものの、出荷額や来場者数が増加し、KPIを達成することができた。
実績値を踏まえた事業の今後について			
今後の方針	事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる。	理由	道の駅「仁保の郷」の機能強化により、農産物の売上及び来場者数の増加が見込まれることから、引き続き、交付金対象外事業を進め、令和8年4月の全面オープンを目指す。

道の駅「仁保の郷」の機能強化による地域経済活性化プロジェクトの概要

<道の駅「仁保の郷」整備事業>

道の駅「仁保の郷」大規模改修に係る基本計画」を基に、道の駅「仁保の郷」の機能強化整備を実施した。

●道の駅「仁保の郷」増築・改修工事

<農産物直売所>

- ・農産物の売上増加に伴い、陳列・通路スペースが不足し、農産物の新規出荷者の受け入れが難しくなる状況が生じていた。また、農産物直売所の特産物の一つである「漬物」については、令和3年6月に改正食品衛生法が施行され、漬物を製造して販売する場合に営業許可の取得が必要となったため、出荷者から漬物製造の継続が難しいという声が挙がっていた。そのため、農産物直売所を増築し、十分な陳列スペースを確保するとともに、漬物加工所を新たに設置した。
- ・キャッシュレス決済・セルフレジの導入、AI照明・AIカメラの導入など、デジタル技術を活用した来場者の利便性向上、更なる販売促進を図った。



<レストラン棟・多目的デッキ>

- ・レストランは、ピーク時における座席不足などの課題があった。そのため、レストランを増築し、十分な席数を確保するとともに、ボックスタイトやカウンター席を設置し、幅広い年齢層や来場者のニーズへの対応を図った。
- ・多目的デッキは、イベントを多数開催しているものの、出店希望が多く、イベントスペースが不足している状況にあり、併せてイベント開催に必要な電源等の環境づくりが求められていた。そのため、電源設備を備え、キッチンカーの乗入れを可能とするなど、多様なイベントの開催も可能となる多目的デッキの改修を実施した。



<倉庫棟>

- ・道の駅やテナント用の倉庫が不足していたため、防災備蓄倉庫の新設に併せて、倉庫棟の整備を行った。

